どうして？

製作　社団法人 山口県理学療法士会
原作　蕨野　沙希
絵　森重　晶子

①

ぼくの名前は　だいき！

山の口小学校の一年生。友だちもたくさんできたし、

毎日学校に行くのがとっても楽しみなんだ。

そして、もう一つぼくには楽しみなことがあるんだ。

それは、学校から帰ってお母さんと一緒に

買い物に行くこと！

だから今日も急いで家に帰るんだ。

だいき　「ただいま～、ラブ」

いぬ　「わん！」

だいき　「今日もお母さんと買い物にいくんだよ、いいだろ～」

いぬ　「わんわん！」

だいき　「お母さん、ただいま」

どうして？
2009年2月1日　第1刷発行

原作　蕨野　沙希
絵　森重　晶子
編集　社団法人 山口県理学療法士会
公益事業推進部
子どもふれあいプロジェクト
小野　文恵・沖原　美菜子
発行　社団法人 山口県理学療法士会
事務局　山口県萩市江向413番地の1
〒758-0041
都志見病院リハビリテーション科内
TEL（0838）22-5771
印刷　大村印刷株式会社

●紙芝居を作った経緯●

社団法人 山口県理学療法士会では、幼い子ども達にも障がいを理解してほしいと考えています。そこで今回、高校生以上の県民のみなさまに、心身に障がいを持たれた方と子どもとのふれあいをテーマとした紙芝居のストーリーを募集しました。応募いただいた中から最優秀作品を一遍選び、そのストーリーを基にこの紙芝居が出来上がりました。

製作　社団法人 山口県理学療法士会
原作　蕨野　沙希
絵　森重　晶子

どうして？

どうして？

②

母　「おかえり、だいき。今日は学校楽しかった？」

だいき　「たのしかったよ！今日は昼休みにサッカーを
したんだ。それでね、ぼく、1点入れたんだよ。」

母　「すごいわね、よかったわね。
だいき、今日も宿題が終わってから
買い物に行くわよ。」

だいき　「うん、今日は何を買ってくれるの？」

母　「ちゃんと宿題したら、
おやつにプリンを買ってあげる。」

だいき　「やったー！」

ぼくは急いで宿題を終わらせて、
お母さんと買い物に出かけたんだ。

③

だいき　「今日の夜ごはんはなーに？」
母　「今日はハンバーグよ。だいき、大好きでしょ！」
だいき　「わーい、ぼくハンバーグ大好き！」

夜御飯の材料とおやつのプリンを買って、
ぼくたちはお店を出たんだ。

だいき　「あっ！うちのラブとおんなじ犬だ。」

ぼくは走って触りにいこうとした。

母　「だいき、だめよ！」
だいき　「どうして？」
母　「あのわんちゃんは盲導犬といって、
目の見えない人のお手伝いをしているの。
今はお仕事中だから邪魔したらいけないのよ。」
だいき　「えっ？お仕事中なの？どんなお仕事をしているの？」
母　「目の見えない人の目の代わりになって、
曲がり角や危ない所を教えているのよ。」
だいき　「そうなんだ、ぼくんちのラブとは違うんだね。」

ぼくは、そんなこと知らなかったから、
もうちょっとで
お仕事の邪魔をしてしまうところだった。

どうして？

④

その時！

ドン！

おじさん　「あいたたたっ…」

通行人　「あ、すみませーん」

どうして？

⑤

だいき　「お母さん。
あの人、おじちゃんにぶつかったのに
走っていっちゃったね。
おじちゃん、大丈夫かなー？」

ぼくとお母さんはすぐに
おじちゃんの近くに走っていった。

母　「大丈夫ですか？」

おじさん　「大丈夫です…ありがとうございます…」

たくさん人がいるのに、みんな知らんぷり。

どうして？

⑥

だいき　「なんで誰も立ち止まってくれないの？
おじちゃん倒れているのに、
どうして…？？」

ぼくは大きな声でたくさんの人に聞いてみた。
そしたらみんな、
ぼくの方を向いて立ち止まってくれたんだ。

どうして？

⑦

女の人　「ごめんね。
仕事で急いでいたから
困っている人に手を貸してあげることも
忘れてしまっていたわ。
君のおかげで大事なことに気付いたわ。
ありがとう。」

そういって女の人が声をかけてくれた。
そしたらたくさんの人が拍手をしてくれて、
おじちゃんも喜んでくれたんだ。

どうして？

⑧

だいき　「おじちゃん、よかったね。
　ぼく、だいき。
　この犬の名前は何ていうの？」
おじさん　「ハッピーっていうんだよ。」
だいき　「ハッピーかぁ！かっこいい名前だね。
　ぼくんちの犬はラブっていうんだ。
　ハッピーは、おじちゃんの目となって
　お仕事してるんだよね。すごいなー。」
おじさん　「そうだよ、よく知っているね。」
だいき　「へへへ、さっきお母さんに教えてもらったんだ。」

どうして？

⑨

おじさん「そろそろ帰ろうかな」
だいき「うん、おじちゃんの家はどこ？」
おじさん「この道をまっすぐ行って、理葉ヶ丘公園の近くだよ。」
だいき「ほんとー！ぼくの家の近くだねー。ぼく、途中までハッピーと一緒にかえりたい！」
母「すみません、この子、犬が大好きなもので…。」
おじさん「いえいえ。ハッピーはいつも私と二人きりですからね。だいきくんが一緒でうれしいと思います。」

♪ピーピーピ、ピーピピピピ…（とうりゃんせの音楽）

おじさん「この音は、信号が青になったことを知らせてくれる。それにハッピーは、おじちゃんの目の代わりになってくれているから、危ないところがあったら、すぐに止まって教えてくれるんだよ。だから、おじちゃんは怪我をせず安心して歩けるんだよ。」
だいき「だいき、おじちゃんはどうやって字を読むかわかる？」
おじさん「えっ？どうやって読むの？」
だいき「字は、点字って言って、手で触って読める文字があるんだよ。」
おじさん「すごいわね、だいき。いっぱい工夫してあるんだね。」
母「あ、公園が見えてきたわよ。」
おじさん「そうか、では、もうすぐおわかれだね。今日は本当にありがとう。」
だいき「おじちゃん、また会おうね！バイバイ！」

音響用押ボタン

どうして？

⑩

目が不自由な人のほかにも、
耳が聞こえない人や、
足や手が動かない人、
話すことが出来ない人とか、
たくさんいるんだ。

そんな人のためにいろんな工夫がしてあるけど、
それだけじゃなくて誰かが傍にいてくれたら、
すごいあったかい気持ちになるんだってことを、
おじちゃんと出会ってぼくは知ったんだ。

だから、みんなもいろんな出会いを大切にしてね。